2018/5/27(日)9:50-12:50 (受付開始 9:00)

脳血管疾患の治療と予防における抗血小板薬・抗凝固薬の選択と注意点

講座情報

脳梗塞の再発予防には抗血栓療法が有効である。慢性期の抗血栓療法の選択としては、非心原性脳梗塞であるアテローム血栓性脳梗塞とラクナ梗塞には抗血小板療法、心原性脳塞栓症には抗凝固療法が原則である。非心原性脳梗塞の急性期には短期間の抗凝固薬アルガトロバンと抗血小板薬の併用療法を行うが、慢性期には抗血小板療法の単剤が原則となる。心原性脳塞栓症では、ワルファリンを中心とした抗凝固療法を行うが、非弁膜症性心房細動による脳塞栓の場合には直接抗凝固薬 Direct Oral AntiCoagulant (DOAC)が用いられる。心原性脳塞栓症急性期での抗凝固療法開始のタイミングについては、出血のリスクもあることから明確にはされていないが、再発予防の観点からは早期の開始が必要である。

講演者情報

星野 晴彦

東京都済生会中央病院 副院長 神経内科・脳卒中センター

プロフィール

1959年生まれ。1983年慶應義塾大学医学部卒業。1983年より東京都済生会中央病院内科研修医、その後、専修医、医員。1989年米国クリーブランドクリニック神経内科、英国国立神経病院、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校神経内科およびアルツハイマー研究所で臨床研修。帰国後、東京都済生会中央病院神経内科副院長、その後、神経内科医長。2005年慶應義塾大学医学部神経内科講師、2007年慶應義塾大学医学部神経内科・脳血管障害予防医学講座特別研究准教授、2011年より東京都済生会中央病院内科部長・神経内科部長・脳卒中センター長。2017年より東京都済生会中央病院院長補佐。2018年より東京都済生会中央病院副院長。神経内科専門医、総合内科専門医、脳卒中学会専門医、頭痛専門医。専門領域は脳血管障害。2013年より公益社団法人日本脳卒中協会東京都支部長として、脳卒中の正しい知識と予防のため定期的な市民公開セミナーの開催、脳卒中・循環器病対策基本法設立に向けての活動もしている。

主要著書

- 1) 星野晴彦編集協力者:臨床神経学辞典, 医学書院, 東京, 2000
- 2) 星野晴彦:頭部 MR マスターガイド, 診断と治療社, 東京, 2005
- 3) 本多虔夫, 星野晴彦:専門のお医者さんが語る Q&A 脳卒中とリハビリテーション, 保健同人社, 東京, 2005
- 4) 星野晴彦著, 鈴木則宏監修:エッセンス脳血管障害の画像診断. メディカルレビュー社, 大阪, 2009
- 5) 高木誠監修, 星野晴彦, 荒川千晶編集:外来で神経を診る, シービーアール社, 東京, 2014
- 6) 星野晴彦監訳:脳卒中症候群, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 2016
- 7) 星野晴彦:脳卒中 専門医が説き明かす 病気の前兆・急性期対処法・予防法, ヌンク, 東京, 2017